

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyoukai.com

http://yuaiyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

創立六〇周年記念事業

友愛ホール完成

研修会・ゼミ・コンサートなど幅広く対応
最新式映像機器導入・天然木の優しさ

日本友愛協会では、創立六〇周年を迎えた今年、記念事業として大きく二つのことを掲げて来た。一つは五月に鳩山会館で開催された「創立六〇周年記念大会」で、こちらは晴天にも恵まれ成功裡に開催を終えた。(五二四号にて既報)

同じく創立六十周年記念事業として計画されていたのが、友愛山荘敷地内に多目的研修施設「友愛ホール」を建設することであった。この度「友愛ホール」が完成し、七月末より使用を開始した。最新機器を備えた友愛ホールを、研修会、ミニコンサートなど幅広くご利用いただきたい。

会議室利用者増加

セミナー室の需要高まる

友愛山荘には、これまで「会議室」としてセミナー等に使える設備を備えた部屋があり、ゼミ、研修などで、多くの方にご利用いただってきた。

しかし、定員が二十名弱と狭い上に、採光の状況が悪く十分な施設といえる状況ではなかった。大人数の場合、食堂を開放し、こちらでの研修会開催など様々な形に対応してきたが、食事の支度時間と重なりと使えないなど、問題点が多かった。

近年、友愛山荘の利用は、大学ゼミ合宿、勉強会、音楽関係の方々の利用と、ゼミナー室を併せて利用される方の比率が高く、「大き



なゼミナー室」は、利用者から生まれた需要といえる状況であった。

建設場所の選択

創立六十周年を迎えるにあたって、記念大会の開催はもとより、何か記念に残るものをと、理事会で議題にあがった。それならば友愛活動拠点である軽井沢友愛山荘に、ご要望の多いゼミナー室を建設しようとい

必要ないスイッチ類は一カ所にまとめ、初めてでも解り易く配置

木々を大切に

選んだのは本館右側の木々がある場所だった。いつも涼しい木陰を作ってくれている木々を、切ってしまうのはあまりにも残念である。昨今軽井沢でも緑が減っているということから、何とか木を切らずに造れる場所はないかと測量を開始したところ、かなりの面積が使えることが判明

真つ白な清潔感溢れる給湯室。今後冷蔵庫などが設置予定

した。実際に使う部屋の大きさを三十三坪確保できる。そして何と、木を一本も切ることなく、収められるというのだ。建設工事は、木が間近に迫ってきているので、不便を極めたが、設計、施工などに携わる方全員が、木を伐採することなく進めることに協力してくださった。

七月三十日竣工

春を待つて工事開始

平成二十四年十一月七日に、地鎮祭を済ませ、水が凍る冬が来る前に基礎づくりをと作業を始めた。しかし軽井沢は景観を大切にすることを意識が厳しく、肝心な建築許可がなかなか下りない。結局そのまま年を越してしまった。

春の到来を待ちかねて、建設開始。担当の建設業者さん始め、電気工事、水道工事など多くの方々が丸となって、一日も早い竣工をと頑張って工事を進めた。

七月三十日、見事に「友愛ホール」は出来あがり、引き渡しを終えた。既に友愛山荘の今期の営業が始まっていることから、引き渡し当日から早速、大学のゼミで宿泊されていた上智大学の学生さんが「友愛ホール」を利用、真新しい建物に若い声が響いていた。

＊友愛ホールに関する利用・設備仕様については、日本友愛協会ホームページに詳しい説明があります。

＊ご希望の方には、資料をお送りいたします。事務局までお気軽にご連絡ください。



一〇インチスクリーンは電動で昇降、正面の背景など、椅子だけの設置にすると舞台のイメージに造られている友愛ホール内部(右) 木漏れ日を受けて穏やかにたたずむ友愛ホール正面からの様子(左)



友愛時評

▼二〇二〇年の夏季オリンピック開催地が東京に決まった。筆者が物心ついて記憶している最初の映像の一つが札幌オリンピックの「日の丸飛行隊」なので、前回の東京オリンピックは個人的に「歴史」の対象なのだが、振り返ると正に隔世の感がある。▼一九六三年六月に結成されたオリンピック国民運動推進連絡会議には本協会も参加し、公衆道徳高揚部会を担当していたそうである。二〇〇八年の北京オリンピックの際に中国政府が躍起になって行った公衆道徳向上運動を思い出させる逸話だが、外国の習慣やマナーに多くの日本人が関心を寄せるきっかけになったことは間違いない。当時の本紙に寄稿された故深津栄一先生の「カナダ便り」には洋式トイレの詳細なルポがあり、あるいは外国からの客人を接待するメンバーのナイフとフォークの使い方に気を使った、そんな時代である。▼東京オリンピックと並行して開催された世界青少年キャンプには、奥田吉郎幹事長はじめ友愛青年同志会のメンバーの大変な奔走があった。あるいは本協会メンバーが国際使節団として外国に派遣された最初の記事を読むと、青年期にあった戦後日本と本協会の瑞々しい活気が匂ってくるようである。▼七年後に開催される東京オリンピックは全く異なる環境で行われる。もともと昨年のロンドンという好例もあり、成熟した国・都市で行われるオリンピックについてイメージすることはそれほど困難ではない。但し、本協会も含め成熟した社会のオリンピックへの関わり方の構想は、なかなか想像力と創造を要するものかもしれない。(ヒゲ)

軽井沢友愛山荘にて

パオ（ゲル）展示開始

木陰にたたずむ二対のパオ モンゴル高原の文化に触れる

夏休みも半ばとなった八月八日、かねてより展示準備を進めていたパオ（中国語名 モンゴルではゲル）の展示が開始された。

このパオは、中国浄宗学会の浄空法師より、鳩山由紀夫ご夫妻に寄贈されたものである。鳩山由紀夫理事長より、寄贈を受けた日本友愛協会は、国際交流事業の一環としてこのパオを展示し、外国文化に触れる機会を提供することとした。

友愛山荘の庭、テニスコートより設置された二基のパオは、木立のもとですっかり周りの風景にとけ込んでいる。それでいて異国情緒が充分に感じられる、独特の存在感を放っている。友愛山荘に新しく登場した「友愛ホール」と「パオ」を、是非訪れていただきたい。

パオ到着までの道のり

鳩山由紀夫理事長が、中国を訪問のおり、かねてより親交の深かった中国浄宗学会の浄空法師とパオの中で数時間、話し合いの時間をもった。

この際パオの作り出す空間が、話し合い、考えをまとめるなどには、独特の効果を生みだしていると感じた鳩山由紀夫理事長が、「パオの中は落ち着いていいですね」と感想を述べたところ、浄空法師から「そんなにお気に召したのなら、プレゼントしましょう」という、まさに「ヒョウタンから駒」の話があり、その実現が急テンポで進んだ。

その後、鳩山由紀夫理事長ご夫妻から、日本友愛協会に設立してくださいと、

本協会への寄贈の話があり、理事会はこれを受けることを承認した。

国際交流事業として展開
それから約二ヵ月後、長い船旅を終えたパオの「材料」が、軽井沢友愛山荘に到着した。

パオの到着を受け、理事会でその使途を協議した。結果、外国の文化に直接触れることのできる良い機会だから、広く多くの方に観ていただきたい。子供たちにも外国の文化を体験して欲しいとの意見があり、国際交流事業としてパオの展示をすることとなった。場所は、軽井沢友愛山荘敷地内と決まり、公開開始は、夏休みの始まりを目処とした。

夏休みの始まる頃に公開開始をと、設置作業を開始



オレンジ色と（左）と紺（右）の鮮やかな彩りが景色に馴染んでいる



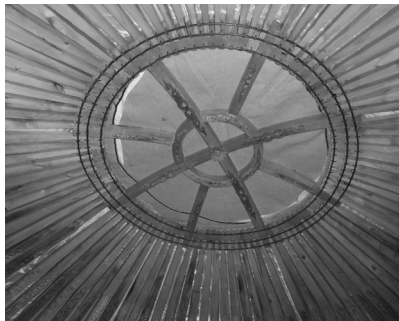
組み立てを担当した宇佐美さん親子（両脇）と鳩山由紀夫ご夫妻



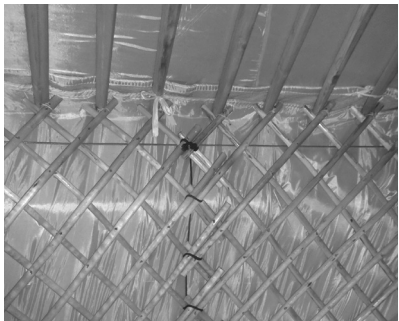
パオを地面からの湿気から守るためまず砂利を盛り上げ砂を敷いた



パオの骨組みが出来上がる。周りの竹矢来物の物は、伸び縮みする



パオの天井。この丸い枠を、周りの弓のような木が支えている



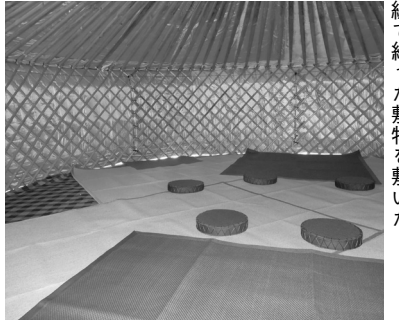
天井と梁の木々を支えているのは、外周の柵。つなぎは革ひも



パオには扉が付いている。外からの装飾性のある物と内扉の二枚



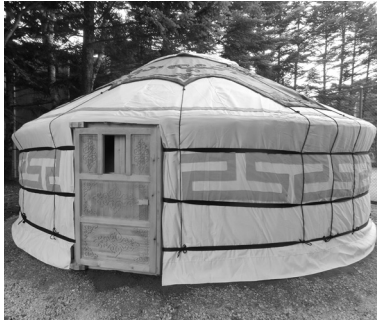
パオの内部から外を見た様子。二重扉はそれぞれ内と外へ開く



出来上がったパオの内部。紙の紙で織った敷物を敷いた



パオと一緒に贈られたモンゴルの民族衣装を手に鳩山由紀夫理事長



オレンジ色と白の優しい雰囲気のパオ。こちらは資料展示室となる



紺と白のすっきりした意匠のパオ。こちらは体験パオとして公開

したが、乾燥したモンゴル高原とはかなり条件の異なる軽井沢では、その後の保全の事も考えた土台作りが必要であった。軽井沢は、定期的に重機使用が禁止されているため、手間のかかる作業となった。

樹林の宇佐美社長は、「建築力学の理に合った造りになっている」と感心している。

エルトの布、これもかなりの重さがある。防水の布を掛け、またフェルトでと幾重にも布を重ねていく。ロープで締めあげ、やっと一つの組み立てが終わった。

二つ目の組み立ては、要領がつかめたので、早く進んだ。一基を体験用に、中に入ってくつろげる空間づくりをする。天然素材のシートを敷き、座布団変わりのスツールを備えた。もう一基は、併せて贈られたモンゴル地方の民俗衣装、生活道具などを展示するための資料室とすることにした。こちらは九月末ころに資料の展示が始まる。

出来あがった二つのパオは、緑の木々に囲まれ、全く違和感なく収まっている。何処を見ても珍しく、なるほど良くできていると頷くことが多々ある。子供たちにとっても良い体験になることだろう。

一つ一つの部品を、芝生

土台を平らにするため、砂利を敷き、座った時にゴツゴツしないようにと砂で覆う。そこに竹矢来のような、伸び縮みする枠を置き、天井となる丸い木製の輪を、弓の様な梁で支えていく。一つ一つの部品は、かなりの重さがあるので、簡単そうに見えるが大人が四、五人で支えることが必要だ。さらに周りを囲うフ

本包（パオ）は、中国浄宗学会より寄贈されたものです。日本友愛協会は、国際交流事業の一環としてこの包を日本の多くの方に高覧いただき、外国文化に触れ、相互理解の一助になれば幸いです。軽井沢友愛山荘に展示します。

趣意
本包（パオ）は、中国浄宗学会より寄贈されたものです。日本友愛協会は、国際交流事業の一環としてこの包を日本の多くの方に高覧いただき、外国文化に触れ、相互理解の一助になれば幸いです。軽井沢友愛山荘に展示します。



砂漠に植樹を実践。鳩山由紀夫理事長
水のでるドリルを使ってスピーディに行われる

クブキ国際砂漠フォーラムに 参加して 鳩山由紀夫

猛暑と豪雨の今夏
今年は熱中症で倒れた方が非常に多かった。甲子園でもピッチャーが熱中症になりかけた。酷暑の一方で、ゲリラ豪雨や竜巻の被害も甚大であった。これは日本だけの問題ではない。先日訪れた中国の欽州でもゲリラ豪雨に遭った。気候変動、地球温暖化は遂にここまで来た。が、世界の目が経済ばかりに眩んでいると、今後、人間たちはさらにひどい仕打ちを自然から受けることは間違いない。
講演依頼を受けて

そんな中、内モンゴルの砂漠地帯で、砂漠化対策のフォーラムがあるので講演して欲しいとの依頼を受けた。喜んでその誘いに乗った。
総理時代に地球温暖化ガスの削減を訴えた国連演説を評価して呼んでくれたのだ。喜んでその誘いに乗った。
遥かなり内モンゴル
簡単に引き受けたが、内モンゴルは遠かった。七月三十一日のうちに北京に入り、翌日一〇人乗りくらいでチャーター機に芳賀秘書とSPを連れて乗り込み、二時間ほど西北西に飛び、内モンゴルのパオトウに着いた。
そこからフォーラムを行うオルドスまで、さらに車で二時間は掛かった。車窓には黄褐色の砂漠が限りなく広がっていたが、道路の周辺はしっかりと植林がなされていた。
到着した七星湖ホテルは砂漠には似つかわしくないほど、威容の建造物だった。このホテルはもちろん、地域一帯の植林・緑化事業、農業、砂漠を材料にしたタイルや壁補強材などの製品を製造する地域産業がすべてELIONと言う一企業によるものであることは驚きであった。
砂漠への植林
翌朝、植林や地域産業の現状を視察した。ドリルから水が出る新兵器を開発したので、砂漠の植林がスピーディになったとのこと、私もポプラの苗木を数本植えてみたが、確かに一本植えるのに一分もかからない。
植林の意義と目的
視察を終えて昼食をとったあと、基調講演を行った。その中で、
「私が国連で温暖化ガスの高い削減目標を掲げたのは、自然との共生を図るべきとの友愛による」、
「しかし、このままでは近いうちに北極海の氷が夏

に消失し、アマゾンの熱帯雨林が枯死する」、
「中国では日本の面積の1%が毎年砂漠化している」、
「アマゾンの森林の減少は毎年日本の面積の1/7のスピードである」、
「日本は中国各地で植林や砂漠化防止事業に協力している」、
「日本友愛協会は毎年植林活動を行い、今年で二十三回を数え、植林面積は二十七平方kmに及ぶ」、
「植林と共に重要なのが再生可能エネルギーの利用である」、
「モンゴルのゴビ砂漠には、日本の消費電力の八倍に匹敵する風力、四倍の太陽光が眠っている。モンゴルから日中韓が協力して東アジアに送電網を整備して、電力供給の安定化を図れば、東アジアがエネルギーで運命共同体となる」、
「内モンゴルでも同様に太陽光、風力を利用して世界に電気を輸出したら良い」、
「日中関係は最悪の状況の今だからこそ、植林や再生可能エネルギーで日中が協力を強化すべきである」などと述べた。
孫正義会長提唱の、このアジアスーパーグリッド構想はとくに関心を持って聴かれたと思う。翌日北京での李源潮副主席との会談でも、ソフトバンクの島聡社長室長を紹介しつつ、この構想を説明したが、副主席も高い関心を示された。
政治の停滞による日中間の険悪な雲を、大きな構想によって吹き払いたいものである。
日本友愛協会理事長



鳩山二朗大川市長
上は大川市の市章



去る六月三十日(日)福岡県大川市の市長選挙が投票され、立候補していた鳩山二朗氏(三十四歳 鳩山邦夫副理事長次男)が次点候補に大差をつけて圧勝した。

六月二十三日の告示で、元市長／江上均氏、元市長／中村晃生氏、前市議員／石橋忠敏氏(いずれも無所属)等も立候補、四人で戦う激戦となった。その中で八年間、父鳩山

二朗氏は、「動き出す、大川」と主張を掲げ、選挙戦を精力的に戦った。三十四歳という若さと力を前面に出し「私に未来を託してください」と訴えた二朗氏が、有権者の大いなる支持を得た。



鳩山二朗氏大川市長就任 福岡県内・大川市史上最年少市長誕生 元市長・前市議を破り圧勝

七月二十三日(火)初登庁の日は、多くの支援者が市役所で出迎え、拍手と歓声に包まれた。
当選確定の直後、支持者に囲まれて祝福を受ける

支持者を前に当選の挨拶をする鳩山二朗氏

「動き出す、大川」と大きく書かれた選挙カーで活動続けた

当選のお祝い。ダルマに目を入れる。支持者から大きな拍手が湧いた

友愛婦人会だより

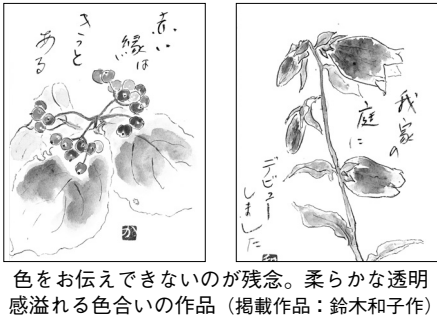
絵手紙の会活動報告

自然と四季の移り変わりをとらえて
扇面に絵を描くから始まった文化活動継続

友愛婦人会では、論語、フラダンス、など活動を続けておりますが、そのなかでものんびりと且つ優雅にささやかな活動を続けているのが「絵手紙の会」です。絵手紙は、文字でお手紙に書くのではなく、絵と、簡単な言葉で、気軽に折々の様子をお伝えするものです。多くはハガキを使いますが、季節によっては小さなウチワに仕立ててお送りしたりと、遊び心も満たしてくれる要素があります。絵に描くのは、やはり季節感のあるものがよろしいのではと思っています。季節感、四季のある日本の、素晴らしい自然ですから、そのため会のある日は、



扇面に描かれた百合 清風と香りを運ぶ



色をお伝えできないのが残念。柔らかな透明感溢れる色合いの作品（掲載作品：鈴木和子作）

皆さんが思い思いの材料を持ち寄ってきてくださいます。今頃の季節ですとホオズキ、ケイトウ、少し季節を先取りしてススキ、マツタケなどが題材になります。

キャンパスは十四センチ×十センチほどの小さなものです。東京の中にあつて、ともすれば忘れてしまいがちな

四季の移り変わり、自然の創る造形の美しさや色、そうしたものゆつくり向き合える、優雅なひと時だと思えます。出来あがった作品をお互

いに観賞して、感心したり驚いたり「相互尊重・相互理解・相互扶助」の友愛精神がそのまま素晴らしい時間を作り出してくれそうです。（婦人会 記）

第24回友愛ドイツ歌曲（リート）コンクール 創立60周年記念

東京文化会館（小ホール）で本選会
九月二〇日より募集開始

本年度も友愛ドイツ歌曲（リート）コンクールを開催いたします。

本年度の第二十四回は「友愛創立六十周年記念」と銘打って、本選会を東京文化会館（小ホール）で開催することとなりました。

JR上野駅の前、東京文化会館は、多くの芸術家も愛用する、歴史あるホールです。この舞台目指して、そして

第一次予選
十月二十八日（月）午前
十時三〇分～午後八時
第二次予選
十月三十一日（木）午後
三時～午後八時
【本選会】
十一月二十六日（火）午
後四時十分開場 午後四時
四十分開演
*一次予選・二次予選の整理券、本選会のチケット購入に際してなど詳しくは事務局までお気軽にお問い合わせください。
*ホームページにも詳細が掲載されております。
第一次予選、第二次予選は、入場無料（要整理券）
本選会チケット
二千円（一般）千円（学生）
*チケットは全席自由席
*半券は聴衆者賞の投票用紙と引き替券となります。

時事川柳 服部迪夫 作

—リスト競売へ
図書館で眠りつづけたシン
ドラ—
—プロボクシング
三兄弟世界チャンプの大偉
業—
—異常気象
予報士の出番が目立つ夏休
み—
—広島・長崎
被爆地の時計が止まる原爆
忌—
—四十市41℃
清流に暑さ飛び込む日本—
—絶対的存在感
ボルト開けボルトで閉じる
モスクワ—
—埒明かず
予先が国にうつった汚染水

作者／時事川柳研究会会長

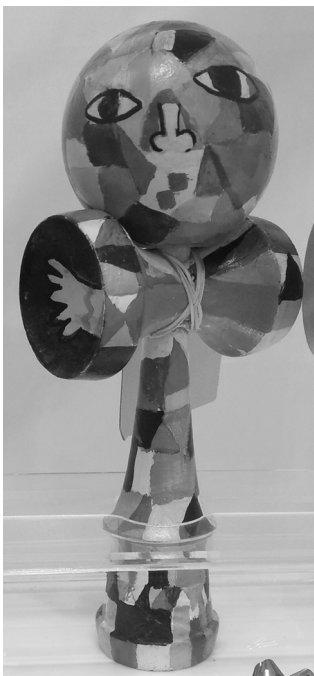
編集後記

◆歳々年々人同じからず。歳とともに質的变化が激しく、あらゆるところに、メンテが必要になって来ている。六十にして六十の非を知るではないが、自分の無知には今更ながらあきれている。読めない、書けない、解らない。友人の顔を見ても名を思い出せず、なんたる事かと思う。
我ながら、こんな筈ではなかったのに、記憶力は必要性に比例するといふけれど、歳とともに脳は確実に退化していくと痛感する。考えること、行動することを含め、何回でもはじめからやり直さねばと反省しきり。
我が人生、実に菌痒い。先が見えても全てにチャレンジ、強がりかも知れないが、そんな心境の今である。（K）
◆秋になると事務局はリートの準備に追われる。従来の本選会場である旧奏楽堂（明治二十三年創建）は古い建物の為、不便を感じる事が多かった。しかし、この旧奏楽堂は、若手音楽家にとって、高校球児の甲子園のような憧れの演奏会場なのだ。聞く。軌む古びた階段、隙間風、華やかな衣装の上に外套を羽織り待機する歌い手。今更、不便に感じたものは全て旧奏楽堂の魅力であったことに気がつく。本年度は、友愛創立60周年記念大会として上野文化会館で開催する。（GO）
◆仲秋の名月を楽しむにす頃となった。しかし最近、月をながめて、満月よりも十六夜の月の方を「いいなあ」と思うことが多くなった。人生が十六夜の時期になったせいか、なあとも思いつつ、でも昔からそれが佳いから十六夜なんて名前が付いたのだろうと、調べてみると、ある事ある事、月にまつわる名前が！どれも皆美しく意味深い。嗚呼、麗しき哉日本語。（も）

第十二回けん玉ペインティングコンテスト表彰式開催 鳩山由紀夫理事長より賞状授与 日本友愛協会賞に米倉音色さん（二年生）

夏休み最後の日曜日となった八月二十五日（日）午前九時三十分より、東京池袋サンシャインビルにある噴水広場において、一般財団法人日本けん玉協会が主催する「第十一回けん玉ペインティングコンテスト」の表彰式が開催された。

日本友愛協会は、このペインティングコンテスト第一回より、「日本友愛協会賞」を提供、その開催を応援してきた。毎年賞状の贈呈者として日本友愛協会の役員が出席していたが、今回は理事長が出席する事になった。



日本友愛協会賞受賞 米倉音色さんの作品 八歳とは思えない意匠力だ



授賞式にて挨拶する鳩山由紀夫理事長 会場から大きな拍手が



今年も見事な作品が揃いましたと挨拶。丸石照機けん玉協会会長



受賞した米倉音色さん（右から二人目）のご家族と記念撮影